

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果からみる 学力の傾向と対策について

海陽町教育委員会

1. はじめに

この資料は、平成31年4月に小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の分析をもとに、海陽町の子どもたちの学力の傾向についてまとめたものです。海陽町教育委員会では、本調査の結果から、教育施策の成果と課題を検証し、具体的な施策に反映していきます。

※本町では、学力調査の数値結果や個々の学校名の公表は行っておりません。

2. 調査の概要

- (1) 実施日 平成31年4月18日（木）
- (2) 調査方式 悉皆調査
- (3) 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒
- (4) 調査内容

ア. 教科（国語、算数・数学、英語）に関する調査

小学校調査は国語及び算数、中学校調査は国語、数学及び英語とし、それぞれ、「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を一体的に出題。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題。

イ. 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容

3. 小学校

- (1) 学力調査結果から

ア. 国語では、「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」や「目的に応じて、質問を工夫する」の問いは、比較的できているが、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」の問いには課題がある。

イ. 算数では、「示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できる」の問いは、比較的できているが、「加法と除法の混合した整数と小数の計算をすることができる」の問いには課題がある。

- (2) 児童質問紙の結果から

ア. 満足できると思われる回答があった質問

- 自分にはよいところがある。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだ。
- 地域の行事に参加している。
- 日本や自分が住んでいる地域のことを外国の人にもっと知ってもらいたい。
- 読書が好きである。
- 新聞を毎日読んでいる
- 授業でコンピューターなどの ICT をよく使っている。
- 授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。
- 自分の考えを発表するとき、自分の考えが伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。

イ. 課題があると思われる回答があった質問

- 家庭学習時間を 1 時間以上している。
- 自分で計画を立てて家庭学習をしている。

4. 中学校

(1) 学力調査結果から

- ア. 国語では、「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ」や「文章の構成や展開，表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」の問いは、比較的できているが、「書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する」や「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」の問いには課題がある。
- イ. 数学では、「数の集合と四則計算の可能性について理解している」、「平行移動の意味を理解している」、「グラフ上の点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差を、事象に即して解釈することができる」、「総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる」の問いは、比較的できているが、「与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる」や「事柄が成り立つ理由を説明することができる」の問いには課題がある。
- ウ. 英語では、「教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる」、「聞いて把握した内容について、適切に応じることができる」、「日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる」「文の中で適切に接続詞を用いることができる」「一般動詞の 2 人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる」の問いは、比較的

できているが、「日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる」や「まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる」の問いには課題がある。

(2) 生徒質問紙の結果から

ア. 満足できると思われる回答があった質問

- 自分にはよいところがある。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 学級みんなで話し合っただけ決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。
- 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい。
- 地域の行事に参加している。
- 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。
- 新聞を毎日読んでいる。
- 部活動に参加している。

イ. 課題があると思われる回答があった質問

- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。
- 人が困っているときは、進んで助けている。
- 家庭学習時間を2時間以上している。
- 自分で計画を立てて家庭学習をしている。

5. クロス集計の結果から（教科に関する調査と質問紙調査の相関関係を調べたもので、結果が小・中学校共通の項目を掲載）

(1) 基本的な生活習慣に関する事項

- ア. 朝食を毎日食べている者は、正答率が高い傾向にある。
- イ. 毎日同じ時間に起きている者は、正答率が高い傾向にある。

(2) 規範意識や自尊感情に関する事項

- ア. 先生が、よいところを認めてくれると正答率が高い傾向にある。

(3) 学習習慣に関する事項

- ア. 家で自分で計画を立てて勉強をしている者は、正答率が高い傾向にある。
- イ. 家庭学習時間が長い者は、正答率が高い傾向にある。

(4) 学習面での先生との関わりに関する事項

- ア. 先生が、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると正答率が高い傾向にある。

(5) 学習に関する関心・意欲・態度に関する事項

- ア．国語・数学（算数）・英語、それぞれを好きだと思ふ者は、正答率が高い傾向にある。
- イ．課題解決に向けて、自分で考え、進んで取り組んでいる者は、正答率が高い傾向にある。
- ウ．自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる者は、正答率が高い傾向にある。
- エ．自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している者は、正答率が高い傾向にある。
- オ．学級みんなで話し合つて決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある者は、正答率が高い傾向にある。

6. 今後の取り組みについて

(1) 教育環境の整備と拡充

- ア．個に応じたきめ細かな指導のための町費教員の配置
- イ．グローバル教育の推進と充実に向けて英語推進員やA L Tの配置
- ウ．特別な配慮を必要とする子どもへのサポート体制や教育相談体制の充実
- エ．I C T機器やA I教材を使った授業展開のためのI C T機器の整備

(2) 教員の指導力向上と授業改善

- ア．子どもたちが主体的に学べる授業づくり
- イ．主体的、対話的な学習活動の充実
- ウ．県や関係機関主催研修の積極的活用
- エ．町内校長会を通して最新の教育情報の提供

(3) 小中の連携強化

- ア．9年間の学びの連続性を大切にした一貫性のある教育の推進
- イ．望ましい学級集団・学年集団・学校集団の育成のための支援

(4) 家庭や地域との連携強化

- ア．コミュニティ・スクールを生かした体験的・課題解決的な学習の充実
- イ．町や各種機関が実施している地域学習への参加
- ウ．規則正しい生活習慣の定着のための家庭への情報発信